

住居確保

## 起業の夢を持って 自立した生活を勝ち取りました！！ (30代男性)



親族のために東京と東北を往復するうちに仕事が継続できなくなり…  
アパートを離れ、ネットカフェ生活に…

父親が倒れ、未経験だった農業を継ぎました。その家業ではさまざまな経験ができましたが、病気により父親を亡くしたため廃業となり、東京に出て新しい人生をスタートさせました。しかし、他に身寄りのない祖母が倒れて東京から東北にある実家への往復を繰り返すことになり、仕事が継続できなくなり、登録派遣の仕事へ転職したことから収入が不安定になり、アパートを手放しネットカフェ生活に…

改めて生活を立て直したい！  
暮らしを改善しようとTOKYOチャレンジネットへ

その後、住まいのない不安定な暮らしを少しでも改善しようと区役所に相談したところ、TOKYOチャレンジネットを紹介されました。相談後に安定した仕事が見つかったので、TOKYOチャレンジネットで一時住宅を利用して貯蓄し自立を目指すことに。

また、前職での経験を生かした資格も取りたいと思うようになりました。

就労先コールセンターの最上級職も目指しつつ、  
実家での起業の夢を持って充実した毎日を過ごしています！

その後、就労していたコールセンターで一生懸命働き、操作のやり方を研修するレベルになりました。貯蓄も順調に増え、晴れて自身のアパートを構え自立することが出来ました。そして、会社からは、「いざれは最重要部署を任せたい」と言われるようになりました！

今は、「司法書士国家資格を取得し、実家に戻って起業したい」という夢に向かって仕事と勉強で充実した毎日を過ごしています。

## CASE 2(一般支援コース)

# 住宅確保と就労相談 ワンストップサービスの強みを 感じました！ (40代男性)

住居確保



住民票が取得できずに勤務先から仕事を減らされ…  
アパートの費用が払えずネットカフェへ

派遣で就労していた飲食店などの仕事が減らされた影響からアパート費用の支払いが滞り、退去となりネットカフェへ。雇用継続に必要な住民票が取得できないことから、さらに仕事を減らされ、店長からは退職するよう通告されました。このままでは仕事もなくなってしまいそうで、先が見えない不安な日々を過ごしました。

**一時住宅を利用してすることで、安心して就労相談！  
安定した収入を得るために転職を希望しました**

とにかく収入を増やすために転職を考え、ハローワークへ相談に行ったところ住宅相談も兼ねて「TOKYOチャレンジネット」を紹介されました。一時住宅を利用することで住民票が取得でき、シフトが減ったため、転職するための就労相談を行うこともできました。面接を積極的に受け、新たな飲食関係の仕事にも就きました。

**住宅相談と就労相談に対してワンストップサービスの強みが！  
無理のない方向で自立支援を計画してくれました！！**

住宅確保と就労相談という複数の相談内容にも関わらず、「TOKYOチャレンジネット」ではワンストップサービスで両方の相談と一緒に解決してくれました。また、転職活動による疲労と不安も蓄積されていった時期には、そのような状況を察知してくれた相談員さんが、住宅資金貸付を利用して無理のない形で自身のアパートを確保する方向へ導いてくれました。職場に近い距離で家賃としても負担とならない物件で、ようやく落ち着いた生活を取り戻すことができました。

自分ひとりでは、仕事と住まいの問題を同時には解決できなかったと思っています。

## CASE 3(一般支援コース)

# 流す悔し涙は、 「自分の境遇」から 「純粹に仕事への熱意」へ！ (30代女性)

住居確保



実家を離れてネットカフェで寝泊まり  
正規雇用を目指すものの住民票が取得できず…

父親との折り合いが悪く、実家から離れて以来、ネットカフェで寝泊まりしながら正規雇用を目指しつつ、派遣の仕事を継続していました。正規雇用の際には提出書類で住民票が必要ですが、実家の引っ越しとともに私の住民登録がなくなり、住民票が取得できなくなり困っていたところ、「TOKYOチャレンジネット」を知り相談しました。

一時住宅を利用して貯蓄開始！

持ち前の細やかさを武器に、堅実に貯蓄しました

相談の結果、アパートを構え自立するために、TOKYOチャレンジネットの一時住宅を利用して計画的に貯蓄することになりました。派遣では検品や梱包など、細かい仕事を任されていたこともあり、仕事の細やかさを生活費管理にも活かしコツコツと堅実に貯蓄を継続していました。その頃、派遣先の会社からも働きを認められ、直接雇用の話もいただくことになりました。

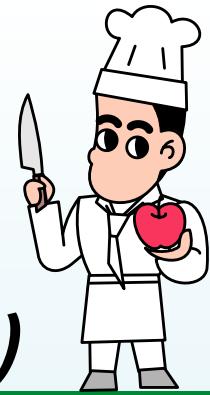
就業先の会社やTOKYOチャレンジネットに支えられて直接雇用へ！  
今では、仕事で悔し涙を流せるほど充実した環境が整いました

派遣元から派遣先への直接雇用という慎重さを要する転職活動となりました。週給制から月給制の変更に伴う日常生活費の心配や、派遣元とのトラブルの可能性など、様々な心配がありました。しかし、会社とTOKYOチャレンジネット相談員さんが親身に接してくれた結果、無事にアパートを確保し、仕事に専念できる環境が整いました。以前、自分の境遇に流した悔し涙は、仕事に対する悔し涙へと変わり、今は「もっと頑張ろう！」と思えるようになりました。

住居確保

# 過去の失敗を教訓に、 これから「自立」した生き方を！

(40代男性)



知人と共同経営していた飲食店が閉じることとなり…

アパートも知らないうちに解約され、住居を失うことにな

25歳で結婚するものの、嫁姑との間で板挟みになり逃げてしまいました。その後知人と飲食店を共同経営するも、経営不振により閉店。さらに知らないうちに共同経営者からアパートを解約され、住居も喪失することになり区役所へ相談に行きました。

一時住宅でまず生活状況を改善

「自分で新しいアパートを借りられる」と確信しました

弁当屋に就労していたことから、まずは住居確保のため相談した区役所から「TOKYOチャレンジネット」を紹介されました。一時住宅を利用することで、疲れを癒しながら日々の金銭管理などを含め生活状況が改善。おかげで「空いている時間で転職も考えたい」という気持ちが芽生え、今までの経験を認めてくれるような職場を探すため、就労相談も始めました。貯蓄計画も無理のない範囲で相談員さんと話し合いながら決めることができたので、「自分のアパートに住める」という確信が持てました。

経験を活かせる職場を求めて転職を希望

人任せにしない、自立した生き方していくために

その後、飲食店経営での細やかな接客経験が認められ、ホテルでの就労が決まりました。そして程なく、アルバイトから正社員契約へと発展！雇用保険にも加入し収入も安定。貯蓄もでき、無事にアパートを確保して自立した生活を手に入れました。

自立支援は完了しましたが、「今後も定期的に連絡を取り合いましょう」というTOKYOチャレンジネット相談員さんの言葉で「何か困ったら相談しよう」という安心感と、これまでの支援に対する感謝の気持ちでいっぱいになりました。

## CASE1(介護職支援コース)

住居確保

償還免除

# 利用者さんからの 「サンキュー！」がエネルギー！ (60代女性)



夫の両親の介護を一方的に押し付けられて離婚  
住居を喪失することに

約30年間アメリカで夫婦生活を営んでいましたが、夫の両親の状態が良くなかったことで、介護のために日本へ帰国。夫婦で協力して介護をするはずが…夫はアメリカに残り帰国せず、介護を一方的に押し付けられる形となりました。のちに夫との離婚を決めたものの、当時抱えていた負債と住居の喪失が合わさることに。

## TOKYOチャレンジネットとの出会い 「大変さ」と「喜び」を経験し、念願の介護職へ

ひとりでは解決できない問題なので、まず区役所に相談したところ「TOKYOチャレンジネット」を紹介され、利用を申し込みました。

「勉強」の大変さを痛感しながらも介護を通じて利用者さんに喜んでもらえると想像すると、「楽しい」と感じて続けられました。介護職員初任者研修を修了後、就職活動での面接では「私は一度働き始めたところはそう簡単には辞めません」と仕事への熱意を伝えました。私の意志が通じたのでしょうか、念願の特別養護老人ホームへ就職が決定したのです。

## 利用者さんからの「サンキュー！」を生きがいに新しいスタート 更なる資格取得を目指します！

職場ではすぐに全員の利用者さんの名前を覚えました。仕事を間違えて怒られても、仕事のキツイ時があっても、絶対辞める気がしません。今では「ありがとう！サンキュー！」といってくれる利用者さんから、介護の仕事をずっと続けていけるエネルギーをもらっています！今後は介護福祉士の資格取得にチャレンジしていきます！！

## CASE 2(介護職支援コース)

住居確保

償還免除

### 「思いやり」を介護の仕事で發揮!!

(30代男性)



飲食サービス業では店の方針と自分の気持ちの板挟みに解雇とともに住込み寮も退去となり住居喪失

お客様にゆっくり味わって食べてもらいたいという気持ちと、回転率を上げろという店の方針との板挟み。結局売上自体が落ち込み、飲食店の経営不振から解雇となりました。同時に住込み寮も退去となり、住居を喪失しました。お客様への思いやりの大切さが職場に通じなかったことと、住居・仕事の喪失から大変落ち込みました。

仕事に就きたい！でも決められない…

前職での「利用される方への気持ち」が、介護職と私を引き寄せました

住居喪失後、生活を立て直せずに施設へ入所。「次はどうやって生きていこうか…」と悩んでいました。ある日、担当相談員の方から「同じサービス業でも介護職なら細やかな思いやりを利用者さんのために発揮できるのでは」と助言をしていただき、「TOKYOチャレンジネット」を紹介されました。TOKYOチャレンジネットに来て、相談を進めるうちに介護職は自分に合っている仕事だと気づきました。また、一時住宅での久しぶりのアパート生活で環境が落ち着いたため、介護資格の講座にも集中できました。

全ては利用者さんのために！

安心してご利用いただくために、職場環境にも配慮しています

約2カ月で介護の資格を取得し、ほどなくしてデイサービスで就労も開始。

勤務開始後1週間で夜勤も任され、完璧に仕事をしようと抱え込む時もありましたが、就職後もTOKYOチャレンジネットで相談ができたので、気持ちを楽にして勤められました。最近では、疲れている新人の方に声掛けするなど「サービスを提供する側が気持ちよく働ける・話し合える」環境づくりもがんばっています。

## CASE3(介護職支援コース)

住居確保

償還免除

# 利用者さんを 両親だと思って接しています！

(40代男性)



怪我をきっかけに職を失いました

アルバイト収入は不安定でアパートを維持出来なくなり…

当時、日雇いで水道工事設備の仕事をしていましたが、大きなくぎを足で踏みぬいて怪我をしてしまい、治療に時間がかかることから解雇となりました。交通量調査のアルバイトでしのぎましたが、収入は不安定で、アパートを維持することができなくなり、退去。疲れた身体でネットカフェに宿泊する日々となっていました。

当時は先のことが見えない状況でした

しかし、介護現場の職業体験を通して先が見えるようになりました！

たまたまネットカフェでもらっておいたポケットティッシュでTOKYOチャレンジネットを知り、「今の生活環境を変えたい」という思いからすぐに相談に行きました。相談を進めるうちに介護の仕事を知り、怪我も完治していたことから「介護職支援コース」を希望。未経験で不安だった介護職でしたが、職業体験・実習を通して、利用者さんの接し方を学び、現場で良い評価もいただき自信がつきました。そこで「本気で自分がやりたい仕事はこれだ！」という実感が生まれました。当初相談した際には先のことが見えずに不安だけが先行していましたが、その瞬間ようやく先が見えました。

確信を得た介護職業体験から今、デイサービスに就労しました  
利用者の方を両親だと思って接することが介護職のやりがいです！

講座修了後は、すぐにデイサービスに就労しました。当初は登録ヘルパーとしてやや不安定な就業体制でしたが、TOKYOチャレンジネットで経験した介護職業体験で芽生えた気持ちを忘れずに、利用者の方を両親だと思って大切に接し続けました。

その後は同僚にも恵まれ、努力も認められ、今では晴れて正社員となりました！

## CASE 4(介護職支援コース)

住居確保

償還免除

# 嬉しかった 社長からのバースデーカード。

(50代男性)



年間契約の派遣登録の仕事が終了…

雇い止めとなり、寮付きなので住居も職も失いました

派遣登録をして建築関係の仕事に従事していましたが、現場数の減少とともに2年目にして「契約満了」とされ雇い止めになりました。年間契約ではありましたが、自分には突然のことでした。寮に住み込んでの仕事だったため、退職と同時に住居も喪失することになり、「TOKYOチャレンジネット」へ相談に行きました。

社会に役立つ仕事がしたい！

TOKYOチャレンジネットの介護職支援コースに強い興味を持ちました

父親のガン闘病に際して看護師から介護の仕方を教わった経験がありました。また、東日本大震災後、東北へボランティアにも行ってきました。相談で「介護職支援コース」を紹介されたとき、自身の「社会のために役立ちたい」という強い思いを活かせる仕事ではないかと感じ、一生懸命勉強しました。

自分の存在を欲してくれる利用者さんの存在に感激

社長から頂いたバースデーカードには「感心しました」の言葉が

実習では、自分の手を握って離さない利用者さんに接し、介護の仕事にやりがいと感動を覚えました。紆余曲折を経験しながらも、グループホーム就労後、50代にも関わらず自分の成長を感じています。就労後も料理やパソコンの力を高めるため、貪欲にTOKYOチャレンジネットに通いました。今では後輩の仕事の面倒を任されることも。

そして、誕生日には、社長から頂いたバースデーカードにこんな言葉が！

「いつもフットワークが軽く、何でもこなすあなたに感心しました。これからも末長くよろしくお願ひします。」